



陽光

Vol.15
通巻 99号



新電気窯を迎えて



2020年コロナ禍の中、笠間の陶器市「陶炎祭」をはじめ、地域イベントが中止となりました。また、笠間市内や栃木県益子町、三重県伊勢市に卸していたオカリナや土笛といった主力製品も注文が減少していきます。作っても売る場がないとメンバーの創作意欲は低下しました。売るあてのない大量の在庫を持て余してもしょうがないと思考を転換し、笠間市内の児童クラブにオカリナをプレゼントしました。児童たちの喜ぶ姿が救いでした。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行後、イベントに活気が戻り、工房の製品がたくさんのお客さんの目に触れるようになりました。陶炎祭で販売できるということで、メンバーの一人に創作意欲が戻り、より軽く良い物を作りたいとカップ製作にとりかかっています。

一つ一つ手作りのため、大量に作ることはできません。これまでの大きな焼成窯(しょうせいがま)では、ある程度の作品数がないと、エネルギー効率の悪さもあり、頻回に焼くことが出来ません。そこで、創作意欲の向上に伴う小型の電気窯を購入することになりました。小型であれば少数の作品であっても、試作も含め頻回に焼成することが可能となります。その際、プログラムで温度をコントロールできる電気窯を検討しました。温度管理が容易となることで、メンバーも取り扱いやすくなるからです。

「公益財団法人 太陽生命厚生財団」助成事業の助成金を活用する運びとなり、待望の電気窯を購入することが出来ました。工房はにわかに活気づき、カップや植木鉢、花瓶など創作活動にいそしむ姿が多く見られるようになりました。

納会では1年の活動を労い、また来年と声をかけあいます。年明け早々には、4月のゴールデンウィークに開催する「陶炎祭」に向けて作品作りに励む日々が始まります。(編集子)



↑ 子供に人気のオカリナを
お得なくじ引き販売
← 2024年陶炎祭
工房「陽(yoo)」のテント